明治己卯十二年日誌

養治堂藏書

早稲田大学図書館
文書 27
A 55
2

明治十二年　日誌

一月元日　天氣好晴　近年所無之元朝也
雲霞出海曙　梅柳　度江春色人々
詩々思出られて元朝や　美し妙思想
好氣色　平時人事　お屠蘇　妙味別
昌也年々　首とれ百年　年々　御もトるの足るる
る　豈不祝年豈の不賀年
早晩　萬歩　鳥聲　嬉々　如此　外り　皇城　林
指程　無　れ　指　日々　事の　仰　東　事　者氣
眉目　撥　所　仰　心　焦　々　家　殷　奔
り　起す　掃の　四方　軒　海　堂々　上殿　高　帝
天皇　皇后　真　影　尊　有　清國　飲　居
紙　多　面　傷　年　仰　事　能　知　義　伊　地　紙　歌　の　刻

島谷十郎兵衛誠重と幅を列ねて工家藩に風流を以て教育す又家数百年堂上に交り
西国の諸侯諸侯に申期三將に歌を以て画幅を
賜ふ南海道三條實義公に画幅を列ねて家の自慢
御振舞数の年御迎へ奉り昇殿人第初
自矢祐之助と申候し
雄新千年来年こゝの世の人こゝやすらる
理あり行ひ行ふ賀茂川車馬に廣宣
いと陽の年きを以て

戸主　誠重
父　吉利
母　宇の
妻　八世
四十二歳
七十三歳
六十七歳
三十七歳

嫡子　大八
長女　政子
二男　可二郎
三男　祐三
二女　秀子
四男　季四郎
婢　清
十三歳
十歳
六歳
六歳
四歳
三十三歳
二十二歳

各自輝毫祝書
長政家より南部と乾漆の
二ノ義時
早起面常御清暦書角飯　皇子若宮家内の子
分ての年を上て非役有信に朝拝に華族長門の毎夏
年より士民に不限従六位以上に家但諸方に華族五

文久元年
九月
十日

拙以古例然 天顔拝 御作之度 被仰出 参拝
学士院議官 廣沢真臣 松平慶永 朝彦親王 ヨリ
ヲ以 其筋ヲ以 被仰出 ヲ以 事務ヲ以 ヲ以
御 命 皇后 ヲ以 前 朝彦親王 ヲ以
御不豫 ヲ以 青山 所 皇太后 御宅
午後 三條 実美 西園寺 ヲ以 御宅
参上 ヲ以 三條 ヲ以 ヲ以 ヲ以
ヲ以 ヲ以 ヲ以 ヲ以 ヲ以 ヲ以
三位 義時 卿 参殿

朝彦親王 御門 午前 ヲ以 御宅 高辻 駿河
堂上 公家 地下 森 御 御坂 ヲ以 ヲ以
冨士 ヲ以 助 英國 領事 ヲ以 ヲ以
外國事情 ヲ以 ヲ以 ヲ以

四日 義時
改事 ヲ以 修史 御 出勤 ヲ以 事務 長松
法橋 集官 御 宮 帰宅
午後 ヲ以 ヲ以 ヲ以 ヲ以 ヲ以
ヲ以 ヲ以 ヲ以 ヲ以 ヲ以 ヲ以
大臣 ヲ以 ヲ以 ヲ以 ヲ以 ヲ以
ヲ以 英國 色 ヲ以 大臣 ヲ以 ヲ以
改 ヲ以 ヲ以 ヲ以 ヲ以 ヲ以
大 ヲ以 ヲ以 ヲ以 ヲ以 ヲ以
ヲ以 ヲ以 ヲ以 ヲ以 ヲ以 ヲ以
夜 ヲ以 伊 ヲ以 ヲ以 ヲ以 ヲ以
ヲ以 ヲ以 ヲ以 ヲ以 ヲ以 ヲ以
ヲ以 ヲ以 ヲ以 ヲ以 ヲ以 ヲ以

昨夜吉井に御招きに相成り松田白髭翁
吉井新年寓舎にて酒饌を
吉井清国公使と東洋海防の大感激の
方々
[illegible]館開館に
上野鄙吉文書兼而山形縣令に依頼致し[illegible]
代森敬助[illegible]
吉井上野家に小石川[illegible]
[illegible]
七日晴
[illegible]館出勤
八日晴
九鬼小澤[illegible]

八日晴
陸軍[illegible]
新聞[illegible]
[illegible]本鋼雲[illegible]
長[illegible]
[illegible]
[illegible]館出勤
[illegible]景況[illegible]
[illegible]
[illegible]
十日晴
[illegible]館出勤
[illegible]

岩村藩出張
増田官計
二番藩出張
十位逗留

[illegible]

十日

森長義来訪下僕石橋[illegible]七郎
[illegible]

十一日

史館出勤　正午[illegible]吉井より年賀状来り
[illegible]本田親雄同食[illegible]吉井　鹿児島藩士
帰縣[illegible]　伊地知[illegible]
西州[illegible]大臣公[illegible]
[illegible]

十二日

史館出勤

十四日

十五日

早起　伊地知貞馨大来[illegible]事　吉井也[illegible]
島[illegible]
[illegible]事　[illegible]
[illegible]
[illegible]
伊地知[illegible]　戦[illegible]

安書狀を幷に奉行に渡す
行恢風穏海雲開 皆渡君横港隈不異
尋常恩召使 遠傳
聖詔超賢才
[illegible]
十六日 八木来
十七日
修業館出勤 三浦石来
十九日
清公使ノ話尾崎来寓ノ年賀
宿禰事公ノ招ニテ計年寓屋ノ前林氏ノ別荘
森山和小森沢ト石ノ訪

二十日
修業館出勤 北沢石城来ル 話入り清ヲ慎ム
二十日 晴
夫館ニ来ル 三位公ノ変者ノ打始来ル 北沢ノ話
黒雲丹イカヅチ引ル
ヒヲ家族観劇ニ来ル。根本湖船不風雲
リート評判ノ好
二十日 寒
修業館出勤 元日ノ祝ヲ清国ノ元日
沈吠 吠 沈公使館ノ燭木ヲ行 [illegible]
清ノ人ノ公ノ宴ノ劇場ヲ [illegible]
あるし
二十三日 曇 朝雨

招テ疝氣
劇痛

史館ニ出勤 楓山秘閣ニ宋ノ中井履軒ノ逸史ヲ観ル 立似タル
モノナリ 蓋書履軒ニ子息ナリトテ 履軒ハ大阪ニテ私塾
ヲ開キ懐徳書院ト曰フセシヨシ
此頃府下會議ヲ開キ 私地 福沢議長ナリシト云フ
伊藤参議 二十五日 帰京ス
二十四日 晴
朝長政華山来 火爐ヲ擁シテ談話 十二時頃 辞去
一陣右腰部 痛ミ 少シ 熱ヲ 覚ユ 全ク疝気ナリ 甚タ
困ル 便所ニ行キ 大ニ 寒ヲ 覚エ 漸ク 気ヲ 取リ直シ
臥ス 寝テ 猶 苦シ 夜ニ入リ 痛 甚 シ
腹 背 ニ 通ジ 痛 ミ 七顛八倒 殆 ト 大 困
山本 来 診 治 投 薬 シテ 足 部 ヲ 温 メ
因 ル 草 刈 ノ 子 ヲ 招 キ 帰 宅

前ニ出スベシ

二月 一日 寒 晴 計 三十八度 土曜日
薬用 火爐ヲ擁シ 終日 机ニ向テ 記録 取ル
平尾 来 遊 ス 三郎 来ル 洋 菓子 一箱 持参
大原 来 ル
二日 大 八 正 可 帰 ル 宅 中 清 視
十分ニ 到 ル 足 又 痛 ミ 臥 床 シ 不 眠
ス 以テ 修 理 ヲ 頼 ム 夜 ニ 入 リ 小 雨
夜 開 ク
〇
二日 曇
領 草 刈 来 ル 父 親 ノ 薬 ヲ 持 参 ス
診 来 ル 薬 ヲ 服 シ 其 ノ 後 快 ク 且 前 約
ナ リ シ ト 云 フ
長 寺 田 弘 子 来 訪 向 山 黄 村 来 ル
寒 暑 ノ 挨 拶 断 状 ヲ 書 ク

史館ニ勤ム　柳山和尚死ス　本ノ中井履軒ノ遺史ノ親ニ立ル
モノナリ　拙著履軒ノ子息ナリトスル　履軒ハ大阪府ニテ私塾
ヲ開キ懷德書院ト号セシモノ
此年府下豪議ヲ開カル　知事議長等ヲ撰
伊藤参議ニ書ス　坂新聞ヲ陶冶ス
二月ノ雪
拙著ノ蕪山東洲史燼ヲ新ニシテ談話ニ付決新義
一種右膝部　尻ハ腰ヲ伸ス　生ル
ヨリ　但前ニ出テ　大便ヲ
出ス　又就寢ヨリ　消クシ　仮令ハ
腹背ニ　通ル　痛ハ　七顛八倒　支離滅裂
山本東計治　来ル　計治　来ル　二月
四日　脳ヲ　足部ヲ　温メ
四肢　ヲ　ストル　草刈　名　[illegible]

病名　発作ス
共ニ　共ニ
共ニ　共ニ
二十日
三十日
三十日
二月
修史館ヲ平尾掌記ニ　[illegible]

故以下
三ノ分

天下ノ事ハ数螺怪化

二月三日ノ官民寡會

英人リートノ西洋天事ノ論

琉球ノ事月次

那中ノ沈々

佐和高雪、寺岡高雪、川路高雪

森ノ友ヲ屠、高田ノ事

[illegible]

○一月三日

[illegible]

無山未契代指張指示

三月

とうとう修学館に出勤

四日

学館出勤　無山の話　指導者に談す。修学十ヶ条の

とうとう道路修繕（トミテ）見届お長者の場所に行く

五日

出勤　商石地富家来。リード川村西軍卿（ヒヤウ）　九州新聞

六日

学館に来。川路利良氏に新聞社行の話　富家

同賀誠氏出張に報ず来

岩倉公より書来こと

七日

学館に来。神社に対し岩倉公より書来。

陸公に新聞社の話　富家

同賀誠氏出張に報ず

八日

学館出勤　たまたま閑。

九日

千松義来。平蔓来。昨日川路利良氏

不快にて新社出来事

十日

到昌寺に蔦歌門に揮毫の義の送来　仍て鶴二羽

謝儀（トミテ）贈る　出勤不来

昨夜脚湯大好。岩佐の人診察。山本村治

十五日

朝紀元節　快晴ニテ風雪ヲ

吉井より郵便来り一月二十五日廣島着紙幅来

節ハ伊地知同郷ニ与フル来可賀ニ吉井ニ報神

戸天日坊

吉井より母上ヨリ手紙ニ

三浦音吉より郵便　伊地知ニ郵便を

報ス

此夜脚湯を試ル

十六日

吉井来り来ル十九日陸軍上京帰ル来

三浦音吉より手紙ニ大森ニ出ル来

元田茶四郎来ル。入浴節ノ来ル中村家ヨリ来

寺田屋来ル。又ハ又ハ宮崎を以又面会ニ来

日暮来ル。来ル。脚湯を試ル。

湯治ス。高崎風ヨリ同ノ同上来

第三花壇より郵来

十七日

吉井出ル大坂ニ到着ノ電報来ル、報知ス

伊地知貞馨ハ大坂ニ出ス

清水谷ハ無言ニ書ヲ遣ハシトス

別島ハ吉井ニ手紙ヲ出ス

伊藤博文ハ十月ヨリ以後ハ

谷干城ハ摩耶ニ情ヲ通ハシ居ル

特使ニ到着ス

二月十三日　陰

副島来ル一月以来吉井も不承知ニ而逢ハれし由吉井九日吉井を
再勧メ堅意ナ賜ヘ副島御座候アリ男爵大臣文部卿
拝命之儀申入候処承知之由夫より川村大隈等ヘ相談ナリ然ニ吉井
御承知ニ而十二日薩摩御暇ニ罷越十二日出帆ニ付当分
副島ヘ任せたし仍テ吉井当分之扶持も相渡ス勤務を
試ル其是迄之事務数理可致二月十二日吉井遠慮ニ仕居候
住宅ヘ移リ東京之出張所より所来三等是レ可然
吉井ハ薩摩御暇ニ而伊地知と陸軍之勤を勤メ罷在
治勤之新徒之儀をベシ十日より副島ヘ新規御用アリ十日
吉井より伊地知ヘ同行之数日留り然ル所吉井之専
中ニ副島直ニ申伝ヘ伊地知ニも其兵ニ於テ致参
ノ様承リ度

吉井当分二日取扱候旧年上京中之伊地知副島等ヘ
ヲ内閣ニ関係之ニ依テ申出之
晩東高崎来ル夜伊地知梅庵来ル副島
曇細風晴
午前より上野を訪ヒ辞ス一時
大隈より書状来ル

十四日　陰雪

午後元利蒸汽丸八木佐平月給持参
家君より同伴之年譜成業ある

十六日

夜山岸来ル加納医師来ル岩倉門人林来ル談
片山十右衛門来ル風邪稍癒御話右来ル
之雑誌之致し一通持参夜之

十七日
外務省ヨリ九州ノ遺ル副島伯郵便ヲ梅花ノ詩ヲ贈ル
小森留米○吉井ニ伺京ヨリ接伴ヲ呼テ來ル
本郷安澤根文ヨリ見舞ニ來ル 島津公忠義逝去
着スト云

十八日晴
修史館ヘ初而出勤 三浦ニ面會
副島伯地租ノ件ニ付建白書ヲ岩倉公ニ呈ス

十九日晴且雨
出勤 上杉ト文書調ヘヲ取扱
退出三浦ヲ過キ安井ノ宅ヲ訪フ不在
三浦ト伴ヒ柳橋升田屋ニ於テ晩餐ヲ饗サル 此本

二十日晴
史館出勤○岩倉公史館ヲ見ニ來ル○上杉ト共ニ書ヲ認ム
清公使何如璋ヲ訪○高崎正風ヲ訪不在

二十一日晴 五十五度
庭前紅梅将ニ發 史館ニ於テ初テ高崎正風ニ逢フ
是ヨリ前 何ゾ來タルヲ安ゼズ
川ボリリードノ伴ヒ太政官ノ大寺ノ勅封ヲ開テ 吉井
何地ヨリ經テ金閣使サランカト迄 出代周旋アリシ
黒田参議北海道開拓 札幌本願寺学校ナド
陸奥ノ農業ノ焼払ヒ之ニ勧懲ヲ法律
ト如何
西郷参議ハ熱海ヨリ帰リ
井上参議ハ法制局長官ヲ兼任シテ伊藤ノ席ヲ割ル
伊藤参議ハ河野敏鎌ハ法制局ヲ辞スル

板垣大坂ニ愛国社ノ三ツ会議ヲ開ク
上野藤ハ年上ノ婦人ニ邂逅シ
笑ヒ合ヒ家人ノ話
二十二日 晴
不来終日詩草 影梅
二十三日 曇 終日烈風
昨日上野老公六十ノ誕生ニ祝シ
大風雨門外行人ヲ絶ツ
板垣板ハ不言ノ中ニ
悲哀ヲ帯ブ寒氣骨ニ徹ス
二十四日 晴
史館出勤
史館出勤 長谷氏ト影梅

吉井ニ留ル夕方ヨリ雨
市三郎来
二十五日 晴
史館出勤 千坂来訪 百金借一来ル
相別島ニ行 和氣ヲ不通 言ハ通 平寅ニ言ハ
二十六日
史館出勤退下 三国登明 川田 亀井ニ梅花
遊ブ 梅花満開ヲ 吉井 熊谷人 海道 小梅 都ノ小
金魔 近傍ニ一酬 快感大ニ 和氣ヲ通ハ
二十七日
史館出勤
吉井 熊谷島ヨリ 大坂ニ言ヲ 昨夜 日記
ノ日記 和氣 屋 可 著

晩来吉井ハ赤坂御内本国ニ至リ伊地知正治ヲ訪ヒ事ニ
就テ談シ来ル　相伊地知正治ト共ニ同行シ御用
ニ至ル風邪ニ感シ暑少シ侵シ対シ上リ於テ議ス[illegible]
[illegible]

二十九日
史館出勤　○此頃佐藤久米上京

三月一日
史館石丸[illegible]助ニ会ス[illegible]
来リ[illegible]笹山[illegible]
午後黄遵憲沈文熒来ル　琉球[illegible]
大不平[illegible]
吉井ヨリ土産[illegible]

二日　日曜日
[illegible]大雨午前吉井ノ書状来ル　正午頃帰ル
晴ル　黄沈二子来テ[illegible]　偶然副島[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]李鴻章[illegible]
[illegible]
大雨[illegible]　晩[illegible]迄[illegible]

三日　雨
史館出勤　吉井ニ[illegible]副島ノ[illegible]
勤キ[illegible]
[illegible]副島[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

○午時[illegible]

四日雨

史館出勤　[illegible]

五日雨

史館出勤　択松木　直三郎[illegible]

[illegible]

六日雨

史館出勤　[illegible]

[illegible]

七日

史館出勤　堀尾[illegible]

[illegible]

八日　晴

史館出勤　午後黄遵憲書を遺す　[illegible]

[illegible]

九日晴

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十日雲

[illegible]

義敦人様葉常之介解義之
十日　　義敦葉隠之巻
十二日分
出館出勤　吉井本国御家詰内藤弥右衛門
出張所御奉行　長谷川勘兵衛
巻嶋新兵衛　長谷川勘兵衛　一緒　裏表
無御　黒煙一條事大変遠方帰之是迄之
阿波者　船ノ砲撃ヲ以　御防戦　サマヨリ
男　吉井市四郎　手負　石千七　外ノ者ハ
引上　相ノ　嶋ヲ　船ヲ　浦ヲ　乗捨　逃
直ニ　吉井ハ　出館　家内者ニ出
十三日晴　出館出勤
清水　何如様ノ　話　昨日　望　ヲ　終

伊地知二佐
大坂着

夜吉井ヨリ　伊勢大坂ヲ　来ル　報
十四日曇　度々雨
出館出勤　昨日　新ノ　記ノ　ヲ　拝
濱所　梅林　桜　月　梅　ヲ　世　濱　北　出　屋　敷　色　香　ト
度々　大坂　市四　ヲ　福　ヲ　来　ル　度　ヲ　風　ヲ　傷　ヲ　内
梅林　桜花　事　可　愛
摂陽　陽　国　ヲ　傷　ヲ　ヲ　国　ヲ　名　刺　ヲ
ス
十五日　土曜
手後　吉野　ヲ　訪　岡島　智　堂　ヲ　同行　ヲ　ヲ　来　ル　ヲ
聖　堂　ヲ　雅　隠　セ　ル　十　日　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ
ヲ　西　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ
ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ　ヲ

正使国より一一面会せざる人
松平秀樹 接待武官 栗本鋤雲
世良太一 屋田庸風 渡部清蔵 二橋敬三
川田剛 庄内藩 関千仞 南摩綱紀
小野湖山 佐野藩 佐野常民 絵図方
小野義真 大垣藩 市原陳平 藩医精一
藤井良節 長州藩 吉田清成
長州藩の藩士
清使一行各着所服礼服 大礼服 富士山
服始ず 朝鮮我朝 所載の珠 曰朝珠 其質黄玉
孫 水晶 別位階有差
舊史所載冠位意与我同
大礼小礼以名為別 大礼織 小礼織以製為別

今我水晶珊瑚亦隨官階而別 大礼用珊瑚
小礼用水晶 別 有繡墩服 会日 僅行
拝礼 故未穿是服 朝鮮貢祭祀用之
識一郎曰 以聖像自朝鮮東以像真守
何如 障日 像亦儼然 節渡海 清暗和
瘦年
楽器の二物 大笛 関千仞 大笛 酒壺 所
隨意 別 食器 柿本東京府 軒旋
三方 堂々
本所 川田文書 仏国 渡所 舊国 公使 ヒリ 色 栗色
川崎八右衛門 石炭 花火 大 長 長 逢
平田要人 江戸 絵 多 ヒリ 面 要 弐 川 拝 家 玄井
鉄九郎 おめ 伝 乳 ヒ 風 ト 上 家 如 新 屋 ヒ

笹山忠左衛門様ニ相考ヘ方願ノ旨

十七日 晴 風雨

今日吉井ニ後月ニ出ル家族共勝手向島ニ移ル

風雨甚敷 [illegible]

松榮寺ニ於テ晩来ヨリ子坂起稿シ為メ

女子社ヨリ送ル書面ヲ開キ見ル

○藤原次兵衛来ル 帰ル

十八日

書籍出動 往来吉井ヲ訪フ不在

晩来 [illegible] 月見来ル 岩崎事ヲ談ス

下條拉来ル 吉井ニ伺フ 白石ヲ傷ノ様ス

十九日 晴

朝吉井ニ行ク 向島

向島ニテ

夕ハ伊地知ニ来テ彼ノ僕ヨリ接見ス

成ル 拾時ニ吉井ヨリ岩倉ヲ迎ニ軍ニ来

家ヲ不出 天ノ下不偏 お来ラカ旨カラス只心

七承諾

初ハ吉井ノ慶応島ヲ訪ヒ 岩倉ヲ伊地知ヲ

引キ 勧業ヲヤラセ 俱ニ副島ニ関係ナシ

ヨリ此ニ出ル

副島ハ初ハ松ノ館長トシテ 侍講事動ノ内ニ参議

東ニ決シ長ル

晩ニ 昼上ノ思召ニ 岩内一筆出 土ヲ英斷ナシ

右ニ 岩倉ヲ奮ニ 麻住陛下

サテ拙者儀三月二日出張ニ付別島ヲ伴ヒ
セリ然ニ別島ハ又文敦吉井ト共ニ帰沢ニ
赴ク相別島ハ吉井氏ニ同書セリ
帰沢ノ後ト吉井迄書カスニ付カスニ付ス郷ノ下議賞
上ハ大体ノ
ヒトヒ来ル書カ
陸奥ヲ吉井ニ力ヲ十分ニ吉井別島ニ
勢ヲ別島病ニ付右ノ席ニ
意ヲ伺ノ寓ノ相ヲ外ニ一席ヲ設ケ翼ヲ分ケ
拙ハ報ヲ
別島一生事ヲ
動ク

千枚通報
逆別
ヲ
ヒ
ハ

三月二十日
伊地知着
着京

退下ニ付ル孤鶴ニ
元老院大書記官高崎
集十時解散
十九日
異論出動
荊妻石井
吉井
二十日
吉井
初事ヲ
伊地知

午後二浦に至る、伊地知氏庵に抵る、空海と云ふ
伊地知翁の墓を尋ぬ、時読み難し

住みなれて窓の木陰も去りがたし
ふるさとの、静かなるかな

夕食後出
場金村宅に伊地知氏を訪ふ
二十日朝風雨午前晴
書記登京休暇
伊地知氏と菊屋に宿す、一泊着陸、向島を毎日六八正
可祝四四汽船出発、上関山口より船乗り墨水
市四時より植平氏宅に晩餐、大風雨
次基隆港泊

吉井より人来る、夕麻布を不法

初飲大木
別荘昌明

二十一日
史館出勤　伊地知氏麻布川越に芋焼酎を送る
午後岩倉殿と談不審
副島氏訪ふ　十四時過大木参議来
原氏と摘田氏帰京大木と伴西原氏別れ
酒を梅花園甲風楼高住人方酒方酔
時具談十時過出園
二十三日曜日
朝八時岩倉殿を訪ふ、副島伊地知氏と共に
と伊地知氏に談、夕方西郷氏と坂尾氏と
琉球事件談アリ
午後出陸、浦賀に至る九山泰京、佐水元京
坂尾伴ひ上京スト云

午後可麻布材木町ノ伊地知氏ノ寓居ノ訪好書屋ニ
有梅花飲且談 漢奇傑ノ宅
二十四日晴 寒風
千坂子ノ訪 吉井ヒロクニ不在 千坂子起居
史館出勤 華族數名ノ輩接対
是ハ不上移書ノ事次
晩夕出来事ノ訪ノ問
二十五日晴
史館出勤
夜伊地知氏ノ天敵
上杉公来 長田大来観刀
新島ノ刀尾ヲ
二十六日晴 寒風
史館出勤
二十七日
史館不来 三浦来一夜 伊地知氏ノ訪
同氏ノ千坂子ノ往来ノ訪 勝不在 清水使黄遵
憲ノ訪 夜藤久来ノ訪
二十八日 寒風雪
出勤 上杉古文書ノ写
只今長男孔出 出下居ノ訪子
橋本ノ勅宣ノ写 自彼ノ日立松屋ニ
二十九日晴
史館退下 上野氏 福島暴風吹壁ノ暴風後ノ俄
梅花暴長 花信ヲ不守リシ驚ク計リ 山上ノ

吉井本田ト伴
知ヲ誘ヒ富島
八百松ニ遊ヒ
初桜ヲ賞ス

勝海舟翁ヲ訪ヒ途ニ西郷ノ牝鹿碑ヲ見ル為メ廣群鶴ノ
墓ニ行クナ途ニ同車石倉ニ訪ヘ大石ニ至リ鎌倉中ニ
立派ノ石碑アリテ花園町ニ到リ玉忠ヨリ諸ヒ町田久
成ノ別荘新築ナリシヲ見物シ尋ネ別レ蜂覚氏ニ到リ大森ニ至
同伴道ニ橋本ニ到リ三浦ヲ伴ヒ晩景一同帰ニ入リ帰ル
二十九日 森林門ニ於テ送ル者銭別ニテ新印刷本僑ノ招待ニ
招待ニ立寄リ帰ル
三十日 曇
朝来春雨止ム林氏ニ梅花観ル為メ御用邸近門外ニ
ミ晴 先ヅ青山ノ仮 吉井伊地知本田ノ伴ヲ墨水ヲ
堤上早桜初発 春色妍ナリ 八百松ニ饗シ詩
歌ヲ書ス 満開桜ヲ見テ帰ル 花ニ分カ勤務アル者別
三十一日 晴
寄ル所ニ大槻氏来ル 頃日見ニ行キ

史館出勤
帰途三浦ト同行シ上野ニ桜花ヲ賞シ帰途又
湯町ニ常盤ニ行テ到リ晩酌
四月一日 美晴
史館出勤 途下 南伊豆既ニ強ク八墨水ノ水神ニ
八百松ニ饗シ初メ東台ニ桜花ヲ賞シ道ニ本華
墨水ニ花ノ観ニ於テ郷ヨリ水神ニ至リ三到リ帰酌
立松ニ一寸相晴 相ヲ堤上勤務月夜花ニ新め
畫花ヲ歌ニ纏細ニ采冊介葉ヲ途ニ此ノ帰ル
二日
訪問ヲ為ス文八郎来 庭前ニ桜花満開
花下散酌
佐佐通訓 鹿十磯合来

松方 昨十一年二月十六日 欧州出帆 今年 帰朝
伊国博覧会ニ 兄

三日 神武帝祭日
紀元節 終日風雨ナリ○桜時
夜吉井ニ会シテ松方帰朝ノ祝ニ趣ク 伊地知 小倉 建野
山田某共九人陪ス 此夜ニ及テ席ニ新話ヲ聞リ
四日 晴
昨ノ様子藩邸 服部ヲ見ニ入来 書記
事ヲ聞ケリ
史館出勤 会 大隈事務ヲ問ヒ
琉球藩ヲ廃シ沖縄県ト改ムル事 県庁首里ニ在リ
同日吉井ニ会シ談話
晩ニ伊地知 岩倉公ヘ兄達書差出ス
五日 土曜日
午前史館ニ出 不快ニ付 退ク 書キ

清館黄遵憲ノ招キニ応シテ会スル者 小野湖山 浅田宗伯
宮本小一 岡本文平 蒲生重章 樺山ノ親等ナリ
黄氏琉球藩廃止ノ事ヲ語ル 清客モ決シテ不楽ノ様子ナリ
口ヲ以テ帰国ノ事ヲ説ク○英公使カ申シタルニハ 何以陪席ニテ争フ名ルナリ
午後共ニ晴 向島ニ遊フ 晩香廬ハ百松ノ宿ナリ 三浦 永井
九園 北沢ト舟中ニ三園 堤下ニ往テ 綾綱直枕 舟ニ入リ
桜花ヲ賞ス 満堤爛漫ノ中 行人如雲霞 東ニ耶蘇
ニ離ル 指ナリ 四舟ハ百松ニ会ス 秋月 長奇 新東 嘱州 松等
月下ニ歩シテ帰ル 東上 雷寺 北沢 桜花ヲ観月
光照ス花千枝ニ 花光粉ヲ発ス 輝耀 燦燁 其
不可言 誠夢 十二時ニ 陪於ナツテ帰ル

六日 曇
早朝 老父 大八 阿 携テ 向島ニ遊フ 百松ヲ経テ 堤

上陸人数調出等常例不行不成合拘り舟を住居
以上より観花の賞翫相成り西国と東国と数年迄に晩天海
三西国上国寛恵方面人事迄悔恨すること
長崎奉行を格下

七日

晴 ○午後より雨 ○午後入稿書
七日来 即刻お使
伊地知より清度筆談 談ず帰し来清国人
不可窺可窺 ○此方未
八日 晴
早朝暴風花の散すべき様
史館出勤 吉井 伊地知 田上山人より招り
昼前帰宅

九日 雨
史館出勤 信近三浦を携帰 吉井に別れ出
麻布に伊地知訪の夜九時帰る 風雨すさまじ
下宿 [illegible] 住居 数帰し後 雷雨十
二時 ○家内子坂に訪

十日

遷坐勤 帰金塊の話平方不行 来達
麻布の在堂惟一より招力 見せ
来る

十一日

英国リード帰国 ○島子出船日乗別れ
[illegible] の政大に力を遂し懐 [illegible]
史館出勤 帰金清館何氏に訪 硯 吉井 尾硯 墨帖

自藏寺殿ヲ探査セシム 硬い美濃紙帖、傳狩野山
伊地知氏ヲ訪ス 吉井ノ話 宮本氏来
三浦茂左衛門ヲ訪ス 伊地知氏ヲ訪ス
五月軍ヲ

十二日 晴
史館出勤 午後副島氏ヲ訪フ 高木氏ヲ訪
副島氏ヲ訪ス 長使来ル 明日ノ移徙ト
ハレナリ 十四日移居スベシ
長浦ヲ去テ鹿門ヲ 紅櫻ヲ
ヨリ 横上一冊 吉井ニ言ハンノヘイヲ

十三日 雨
圓爐ヲ切 四太刀ヲ西ニ 来ル 月利ニヨリ
正宗弟子 長谷部國重ニ作ル 充見

丹後地鐵ニ豆ノ如キ然ル黄ノ斑点アル
岩倉老父ノ病ヲ訪フ 石堂
水沢政信来 季四郎ノ書ノ依ル 明日彼ノ使ヲ
ヨリ妹ニ一ヶ月ニテ 明日ヲ期ス
高木 墨ニ寄

別当地ヲ来ル 刀ヲ買フ 十五圓ヲ受ケ 副島氏
史館出勤 生氏ヲ訪フ 倫ヲ
旨ヘ能ク 明治三年 月ヨリ 然ル
副島伊地知ヲ同ス

十四日 雨
出勤 副島副島ニ言ハル 和歌ヲ 吉井ニ言ハル
十五日 風

出勤　副島ハ書状ヲ清国ニ送ル
午後　清公使ヲ訪　黄遵憲ニ筆語　水沢出来
日本物産同盟ニ火事ヲ失ス　陸船ニ乗ル
笹山ヲ訪
坂尾要蔵ヲ平方ニ訪フ　坂ヲ出ル
十七日晴
出勤　帰途三浦屋ニ寄ル　三浦
同道伊藤屋ニ飯ス　解任料ニ国六十銭ヲ
十八日　去月ヲ
十九日晴
晩方長崎ニ来
二十日雨
朝食西肇ニ会ス

伊地知
副島二人
富有南南
掛一等官
任取扱年俸
四十四
副島六年
征韓業
開敷今始
任官

去月伊地知清廉ハ正治ニ会シ富ニ訪
明日ハ同ニ来ル　晩方ニ訪シ且例ニ帰
除　伊地知清廉ニ会ス　約束ス　三更ニ帰ル
二十一日美晴
伊地知清廉ヲ同ニ伴ヒ富ニ
省ニ向掛一等官ニ就ク　年級四十国賜ル
副島ハ清国ニ向掛伊地知御書掛
公館正下直ニ去月ヲ訪　伊地知清廉ニ
二十二日
出勤　伊地知ハ公館ニ来ル　皆ニ面会
副島ヲ訪　暫時談ス　大元来ル　君ヲ免ス　敬ス
面ヲ歇レタリ
毛利恭助ヲ訪　食事ス　山内頂ヲ伴ヒ帰リ学校

此娘三葉姓ハ伊地知清廉
市重
乙巳
九月廿日記

ホテル世話方より一長谷貞姫様伊藤侯ハ清光門院様
ニ付二十二日汽車にて帰京の三陣御引取
帰宅町ニ家おき梅子不在　人形所々に有之物
二十三日
英館出勤　吉井より来ル
大木さんより百円
三條公ハ明治廿年不在ハ
所内陸軍ハ日田銃砲製造
三島野戸ハ明治廿年山縣形ト云
二十四日美濃屋
我輩宮内省ニ招ル　弱梅風花亂花切ハ五
外ニ塗藤紫　横笛
三島ニ東京ニ来ル

銀行書 炮一条

銀行ハ英館ニ来ル　長政来ル
二十五日
二十六日
二十七日
二十八日
吉原ハ　桜井勝花盛
堀尾ハ　千枝森ニ招ル
二十九日
堀尾事興来ル
三十日
第番西京ニ書柳使ハ
堀島様ハ　徒因姫長ハ

吳服屋等ハ[illegible]
是ハ一向協議ニ[illegible]

十月下

三鴨縣庁ノ事ニ付伊藤武彦ハ[illegible]
同道ニ[illegible]三島山形ノ[illegible]
[illegible]

二十日

安藤出勤退下[illegible]
[illegible]

二十一日

清水[illegible]
[illegible]
何如[illegible]
英ハ[illegible]
[illegible]

二十二日

田舞ハ[illegible]
[illegible]

二十三日

[illegible]
[illegible]

二十四日

大木喬任[illegible]
[illegible]

沼田氏の人と会す

七日 雨

黄遵憲あり同氏と雲亭に飲む 小今来る

八日 晴

英館出動

唐崎賢義 移 郡七郎 高橋博竜 来訪

九日

所田高橋両氏帰駕 皆り

十日 晴

長政宅 文子 層三郎 来る

十一日 曇

午前 山下博四郎 来 大和楽 伝授

夜 三浦 一見 来 松原 来 宴 饗

十二日 曇

沼田成章 来 行 歌 箱 屏 賛 議

十三日

英館退下 雨中入浴 大谷 来

十四日

三浦四郎 大谷 来 墓 参 来 清 周平 来

墓石 建 立 成 建 立 成 来 成 成 会 井 伊 藤

博文 公 会 人 博 本 郎

酒 肴 饗 応 酔 了

阿 会 伊 坂 来 面 会 酒 肴 饗 応 酔 了

十五日

黄 来 来 黄 遵 憲 宴 了 酒 了 御 し

大 谷 来 了 墓 参 来

十六日

重野ヲ訪ヒ帰庵来ル 偏居ヨリ出版録

三浦ニ黙雷ニ話ヲ托ス

原三右ヘ陶器ヲ示シテ見立ヲ乞フ

十七日

吉井宅ニテ伊藤参議ニ会シ [illegible] 従術

長松大山巌 ホ来ル [illegible] 藝技ヲ招ク

来テ [illegible] 梅田雲浜ノ宅ニ男人又ハ撲山ニ [illegible]

十年 総督府 司令官ヲ助ケテ大功アリ

十八日

吉井従所ヘ行キ [illegible] 上野 [illegible] 進 [illegible] 年 [illegible]

公園地 [illegible] 博物館 [illegible] 花園町 [illegible] 別邸

又篤ニ [illegible] 牧場 [illegible] 宅ニ到ル

昨年上京 [illegible] 十八日 [illegible] 翁 [illegible]

副島ヨリ六年征韓退朝ノ 六年ノ請ヲ伝 [illegible] 聖 徳義ヘ御道 六年前ノ御動作ニアラス

丹ニテ築地 [illegible] 出代ノ宅ヲ訪 [illegible] 実

仏事 [illegible] 食ヲ喫シ還ル

十九日

伊藤 [illegible]

集合

二十日

副島ヲ訪 吉井従所 [illegible] 副島 [illegible]

[illegible]

二十一日 [illegible] 効果 [illegible]

[illegible] 従所ノ [illegible] 出代 [illegible]

出館出郵。山岡市之亟ノ訪ツ。内閣書記官ノ館ニ
宅ノ訪ヒシ人ノ有成ノ所陽ヒ駐ヤシ外待ノ本裁判所長等
ハ云フ。青山延寿ヲ訪ヒ対面ノ後田浦和裁判官
長政宅ノ訪ヒ都合帰館ノ招キ有リタリ

二十二日

郵書ノ訪 授所ニ受足ス 代筆オハ元ヨリ墨ヲ以テ
清俊ノ訪ノ好対ス 大木司法卿ノ来館
三島通庸ノ訪
松長政下保来ル 吉井友兄モ来ル 十時
二十三日
郵書ノ訪 伊達肥前守殿ノ書ヲ以テ招キモテナシ
来ル 夜上野ノ酒 酒ヲ飲ムコト 菊酒
井伝四郎 十仏国領事ノ敬書ヲ受ク

二十四日
草刈叫 ヒ来ル 小森俊ヒ内閣来ル
立花ヒ来ル 一昨日ノ礼ヲ言フ

十仏書保ノ

三月廿日 六月十七日 伊藤査保 島田平八 館ヘ

入洲日記別録

七月三日晴天

今朝母堂様御顔色ヨリ精神ガ昨晩ヨリ非常ニ面白ク成リ

ヨリ式平快方ニ向ヒ

水戸烈公横浜ニ藤虎ヲ入ラシ勝海舟ヲ

入ラレタリ

市ヶ谷御屋敷ヨリ去状来ル平素詩ニ自分ニ行キ

黄遵憲沈文燮ガ書状ヲ賜ル文燮ヲ返答来

別島大木ガ書状ヲ賜ル南条ヲ返答来

大久保利通ガ元大人書一葉ヲ送来

留程度ニ答書ヲ送

代議士ノ共和政体ノ議論ヲ送ル

代議士民ヲ面倒ニ成ル

別書ヲ送ル

別島来中ニ陳事ニ付底ニ拙ニ不

板橋驛　林蘭谷ヨリ付来ル所田大谷様方

八月十日晴

早起仕度行不来断り

平田要人来訪吉井錦九郎上ヲ説ク陽氣本藩ヲ進進

田中大蔵門前ヲ通ル　林章ノ来訪

長坂主税ヲ始ル伊勢屋場所ヲ問ヒ

常右衛門ノ書翰ヲ訪ヒ　ヲ以テ

ヲ以テ宇田川水ノ家ヲ

二百文ヲ

史館初メテ出勤ス西着物袴ヲ着用直ニ

先一通リ所存後面ヲ

長松　塾ヲ

黄蓮寺ヲ出ル

晩来毎金子入減大使ヲ長崎ヲ通ス。林来訪

子供ヲ殺害ス。御信ヲ姉初メ

ヲ清ヒ風ヲ訪フ　池原大学ヲ

長坂ヲ

三百四

外大八ノ様ノ物一包ヲ勝物ヲ

清使ヲ地物ヲ

西郷ヲ

筆州八日ノ物

四百文ヲ

史館出勤三浦ヲ

中之舞ヲ

ヲ大ニ来

老父
子秋苦

昨夜暑ク不寝
暑ク体倦ム　長塚氏代筆ス　庭掃除
ヲ為ス　老父病室ニ草ヲ刈ル
林来ル　○青井ヨリ伊藤原吉ニ来ル　長野ヨリ
モ伊藤ヨリ来ル　伊藤原ト室大所ニ
帰宅　伊藤ヨリ西尾ト暑ク話ス　夕方
ニ成リテ那須ト共ニ出ル　心地ヨクナリ
ヲ覚ユ

六月廿七日

伊藤ヨリ酒井ヨリ屋敷ヲ上ル　一切ヲ暑ク
引受ケ　今ニ至ル　グランド　ヲ飲ム
ヲ　老母ハ誕生日ニ当ル　岩井ヨリ
暑ク　西尾ヨリ　一反ノ雪駄ヲ
成雪駄　十五日ノ日ハ暑ク

長野ヨリ　暑ク　伊藤原ヨリ来ル
七日　曇
大ニ鉄道来東南機関車ヲ庭掃除ス

編集十